

平成 30 年度 総合問題（生活科学科 食物栄養専攻）解答例

問 1（50点）

【採点のポイント】

- ・日本と世界の子どもの貧困について具体的に記されているか。

【解答例】

子どもの貧困率は調査対象国の中でも大きな問題である。日本は 15.8%と 41 か国中 15 位で貧困率が高い。また、北欧諸国の貧困率は低い。子どもたちの間の格差は公平性や社会正義の観点から、正当化することができない。子ども時代の経験は現在の生活だけでなく、将来の可能性や展望にも著しい影響を与える。幼少期の社会経済的不利益は成人後の所得や健康状態、スキルの低さにつながるリスクがあり、世代を超えて根づく恐れもある。

(200 字)

問 2（20 点）

【採点のポイント】

- ・表 1 を読み取れているか。
- ・特徴について言及しているか。
- ・所得と食生活の関係が記されているか。

【解答例】

男女とも世帯所得が少なくなるにつれ、野菜・肉類の摂取量は少なくなり、穀類摂取量は多くなっている。世帯所得 600 万円以上と他の群とでは、200～600 万円未満の女性の穀類摂取量以外で全ての項目に差があった。

(99 字)

問3 (20点)

【採点のポイント】

- ・ 図2を読み取れているか。
- ・ 貧困層と非貧困層との子どもの入院率の違いが記されているか。

【解答例】

子どもの入院率は、各年齢で貧困層の方が非貧困層より高くなっており、その差は3歳時点で少なくなっている。また、年齢が上がるにつれて入院率は低くなり、3歳では1歳の約半分の入院率になっている。

(95字)

問4 (50点)

【採点のポイント】

- ・ 計算式を示して正しく計算ができているか。

【解答例】

$$\begin{aligned} \text{青森} & 17,425 \div 99,000 \times 100 = 17.60\cdots\% \approx 17.6\% \\ \text{茨城} & 19,558 \div 228,100 \times 100 = 8.57\cdots\% \approx 8.6\% \\ \text{三重} & 15,040 \div 157,900 \times 100 = 9.52\cdots\% \approx 9.5\% \\ \text{福岡} & 83,464 \div 418,800 \times 100 = 19.92\cdots\% \approx 19.9\% \\ \text{鹿児島} & 29,449 \div 142,800 \times 100 = 20.62\cdots\% \approx 20.6\% \end{aligned}$$

順位	3	4	45
都道府県	鹿児島	福岡	茨城
貧困世帯数	29,449	83,464	19,558
総世帯数	142,800	418,800	228,100
貧困率 (%)	20.6	19.9	8.6

問5 (60点)

【採点のポイント】

- ・ 図・表・資料を参考にしているか。
- ・ 貧困が子どもの食生活および健康に及ぼしている影響について記されているか。
- ・ 栄養士の視点から具体的な取り組みについて述べられているか。

【解答例】

子どもの貧困は、親の社会経済状況により現在の生活や健康のみならず、将来の経済や健康状態、知識やスキルに影響する。また、世帯所得が低い場合に野菜類や肉類の摂取量が少なく、穀類の摂取量が多くなっている。加えて、貧困層では子どもの入院率が高い。

栄養士としての子どもの食生活と健康に対する取り組みには、まず、子どもたちに給食や食育を通して、食べ物が体に及ぼす影響や食に対する正しい知識、食を選択する力を身につけさせることが挙げられる。つぎに、子どもと家庭を対象に、親子料理教室や地域での行事を通して、地元産の食材を使って安価で栄養バランスのよい料理を作ることができ、調理技術を習得することができる取り組みが必要である。これらのことから、食べる楽しさや食文化を体感し、食の大切さに気づいていくと思われる。以上のようにして、子どもと家庭の自立した食生活を支援することができる考える。

(393 字)